

科目名	発達教育学特論Ⅰ、Ⅱ	担当教員	水内 宏
科目属性	専門科目 A 群	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>教育学が「発達」を自らの中心的な研究テーマのひとつとして意識し、「発達教育学」を中核として教育学の将来的な発展を志向する思潮が生まれたのは、精々この 20 年ほどのことでしょう。「発達」研究は、先達である心理学分野などでの研究に端緒を開かれながら、こんにちでは学際的テーマとなっています。この科目では、以下の諸点に留意しながら、学びの新たな地平が切り開かれるようになることを願ってやみません。</p> <p>① 学際的テーマ「発達」について、心理学はいうまでもなく、教育、医療、福祉、スポーツ・健康諸科学など関連諸方面にも目を配りながら、自己のこれまでの守備範囲をこえて学び合うことを重視します。</p> <p>② 「発達と教育」の注視により、カリキュラム（教育課程）のあり方や編成をめぐる諸問題に関して、学習主体・発達主体である子ども・青年の側からも細心の注意をもって思索をめぐらすことができることができるようにしましょう。</p> <p>③ 発達に関わる仕事をするうえで必要な実践的・研究的諸能力の発揚と視野のひろがりの確保をめざします。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>● 「発達教育学特論Ⅰ」および「発達教育学特論Ⅱ」は、履修の順序を示すものではありません。Ⅱを先に履修しても差し支えないし、いずれか一方だけの履修も可です。</p> <p>【発達教育学特論Ⅰの授業計画】</p> <p>§.1. 人間人格の発達と学力・体力など人間的諸能力の発達（15 時間中の約 3 時間）</p> <p>§.2. 発達過程・発達の時期区分をどう考えるか（15 時間中の約 4 時間）</p> <p>§.3. 子どもにおけるあそびの発達の意義&あそびの発達過程（15 時間中の約 4 時間）</p> <p>§.4. 言語・言語能力獲得の発達の意義&言語能力の発達過程（15 時間中の約 4 時間）</p> <p>【発達教育学特論Ⅱの授業計画】</p> <p>§.1. 生きることとからだ——身体発達・身体的諸能力の発達に関するリアルなイメージをふくらませながら、自分なりの「身体」論、自分なりの「身体表現」論を各自が持とう——</p> <p>§.2. 「生きる力」を読み解く</p> <p>§.3. 認識（と表現）の 3 つのタイプと発達——発達と教科——</p> <p>(a)3R's（スリー・アールズ；言語・数）を介しての認識（と表現）</p> <p>(b)形象（色・形・音）を介しての認識（と表現）</p> <p>(c)身体技能の獲得に随伴しての認識（と表現）</p> <p>§.4. 日本における発達教育思想の生成と展開</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>スクーリングへの取り組み 30%、レポート 40%、科目修得試験 30%の割合で総合した評価となります。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>この特論全体をカバー出来るような最適な文献は未だありません。水内の論稿を中心に必要に</p>			

じてその都度提示します。

【参考図書】

なし